

# みんなちがってみんないい

## R2その(1) 指導教諭 木村 栄

本年度も学校便りをお借りして、発達障がいや特別支援教育についてのお話をさせていただきます。

まず初めに、「発達障がいは何?」「特別支援教育って?」の「?」についてお話させていただきます。

知的な発達に遅れはなく、会話もできるし普段の生活を見ていると問題は無さそうに見えるのに、学校の中では「じっと椅子に座ってられない」、「教師の指示に従えない」、「100点や〇にこだわり、少しでも間違えたり失敗したりすると怒ったり拗ねたり、自分の作品を壊してしまったり他人に八つ当たりしてしまう」、「友だちと対等な関係が築けず、年上や年下と関わることを好む」など、本人も周りも困り感を抱えてしまう子どもがいます。

他にも「環境が変わったり、初めてのことに戸惑ったりして、慣れるまでに他の子以上に時間が掛かってしまう」、「計算は得意なのに、字を読むとたどたどしかったり、読めても内容が理解できていなかったり」、「漢字の読み書きが、他の子に比べると極端に苦手で、1学年以上遅れが見られる」など、実はまだまだたくさんあります。

これらの子どもの中には「発達障がい」と言われる子どもたちがいます。

このような困り感の原因は脳の機能障害に起因しますが、一見すると何も問題が無いように見えるため、「我慢が足りないから」、「本人の努力不足」、「親の躾が悪い」などと誤解されがちです。この誤解が、「必要以上に厳しく躾ける」、「周りから低く見られる」要因となり、「素行不良」や「精神疾患」などの2次障害に繋がることも少なくありません。

主な発達障がいは、LD(学習障害)、ADHD(注意欠如/多動症)、自閉スペクトラム症(高機能自閉症・アスペルガー症候群・広汎性発達障がい等含む)がよく知られています。

他にも「発達性協調運動障害」や「選択性緘黙(場面緘黙)」など、発達障がいと呼ばれる症状は多くあります。

平成24年度の文部科学省による調査では、通常学級に在籍する児童生徒で、発達障がいの可能性があり、学習面や生活面で著しい困難を示す児童生徒が6.5%の割合で存在しているとの結果が出されました。これは、著しい困難を示している状況であると判断をした児童生徒なので、学習理解ができていないのにおとなし

い性格のため見過ごされたり、本人の不断の努力で何とか頑張っている状況だったりする児童生徒は含まれていません。周りが気付いてあげられないだけで、本人はとても困り感を抱えたままで過ごしている数を合わせると、10%を超えるのではないとも言われています。

「発達障がいは大人になれば治る」とか、「子どもの時だけ」ではありません。もちろん成人にも発達障がいの方はたくさんいます。気付いていないだけのことが多いです。「自分も昔同じだったから」、「こんな子は他にもたくさんいるじゃないか」と考え、お子さんの困り感から目をそらしたり、「変なレッテルを貼られるかも知れない」、「大人になって結婚ができなくなるかも知れない」と考えたりされる方もいらっしゃると思います。

その考えを否定はしませんが、今の児童生徒が生きる10年後20年後の社会は、今より更に複雑になり、学習能力も社会性も格段に高い能力を求められる世の中になっていると言われています。その社会を生き抜く力を身に付ける一助になる取組が、特別支援教育の中にあります。

2015年野村総合研究所が「あくまでも技術的な代替可能性だが、10年~20年後の日本の労働者が就いている職業の49%は、機械や人工知能で代替可能である」と発表しました。それから5年、現実的になりつつあることは皆さんもご承知のとおりです。

昨年、『障がいは三つの要素「インペアメント(欠損)・ディスアビリティ(能力不全)・ハンディキャップ(社会的不利)」から構成されていて、発達障がいはつまるどころ「ハンディキャップ(社会的不利)」に行き着く』とお話しました。

これは例えば、「読み書きに障がいのあるLDの児童生徒が、適切な支援を受けず、読み書きが不十分なまま成長すると、自分の能力を十分に発揮できない進学先を選択し、運転免許の学科試験や、就労に関わる資格試験にも失敗してしまい、将来的に自分の就きたかった仕事に就けない人生を送る」という話になります。

これは大げさな話ではなく、少なくない割合で児童生徒に当てはまる事実でもあります。

時津東小学校では特別支援教育の取組の中で、少しでも子どもたちが幸せな将来を生きていけるよう、できる限り早期から支援を行っていきたくと考えています。

時津東小学校の教育を支えているのは、特別支援教育です。特別支援教育は、特別な子どもだけに必要な教育ではなく、全ての子どもに必要な教育です。

どの子にも得意なことや苦手なことがあります。得意なことを伸ばしながら、苦手なことをフォローしていく。誰もが、苦手なことや分からないことを遠慮せずに話すことができる。そうやってみんなが伸びていくことができる学校を目指しています。

「みんなちがってみんないい」を執筆している木村指導教諭や、特別支援教育コーディネーターの鳥山教諭、通級指導教室担当の中島教諭・川本教諭など、東小学校では保護者の方の相談にのることができる体制を整えています。

どんな小さなことでも気軽に相談ください。その相談で、子どもさんの困り感を少なくすることができればいいと思います。一緒に子どもたちを育てていきましょう。